

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

< 噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続 >

噴煙は、本日（13日）0時から15時までの最高は火口縁上900mでした。

火山性微動の振幅はやや小さくなっていますが、依然、消長を繰り返しながら継続しています。16時以降は、天候不良により噴煙の状況は不明となりましたが、火山性微動の振幅が小さくなったことから16時頃に連続噴火は停止したと思われます。

本日、宮崎県の協力により実施した上空からの観測では、火口内の東側から白色噴煙が火口縁上500mまで上がり東に流れていました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は確認されませんでした。

昨日（12日）実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり1,400トンで、前回観測（10月11日800トン）より増加しました。

地殻変動観測では、新燃岳方向が隆起する傾斜変動は停滞していますが、噴火に伴う沈降は認められません。

以上のことから、引き続き、新燃岳では活発な火山活動が続いています。

【防災上の警戒事項等】

火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

活動概況

- ・ 噴煙など表面現象及び噴火に伴う噴出物の状況（図1～5、図6）

噴煙は、本日（13日）0時から15時までの最高は火口縁上900m（13時33分）でした。16時以降は、天候不良により噴煙の状況は不明となりました。

本日、宮崎県の協力により実施した上空からの観測では、火口内の東側から白色噴煙が火口縁上500mまで上がり東に流れていました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は確認されませんでした。火口内東側の噴火孔の大きさは前回観測（10月11日）と比べて特段の変化は認められませんでした。明らかに感じる程度の火山ガスの臭気が認められました。

赤外熱映像装置による観測では、前回観測時（10月11日）に火口内東側で噴煙温度の高まりを確認しましたが、本日の観測では噴煙温度が低下しているのを確認しました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び宮崎県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

12日に実施した新湯温泉付近からの現地調査では、新燃岳の西側斜面の割れ目付近及び割れ目の下方で、噴気の状態や熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の状況（図6 ～ ）

火山性微動は、依然、消長を繰り返しながら継続していますが、振幅はやや小さくなっています。

・火山ガスの状況（図7）

12日に実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、1日あたり1,400トンで、前回観測(10月11日800トン)と比べて増加しました。

・地殻変動の状況（図8）

9日15時12分頃に発生した火山性微動に伴う傾斜変動以降、高千穂河原の傾斜計で新燃岳方向が隆起する傾斜変動が続いていましたが、次第に鈍化し停滞しています。その他の傾斜計では、火山活動に伴う傾斜変動が継続しています。



図 1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

火口内東側（図中の赤破線）の噴火孔の大きさは前回観測（10月11日）と比べて特段の変化は認められませんでした。

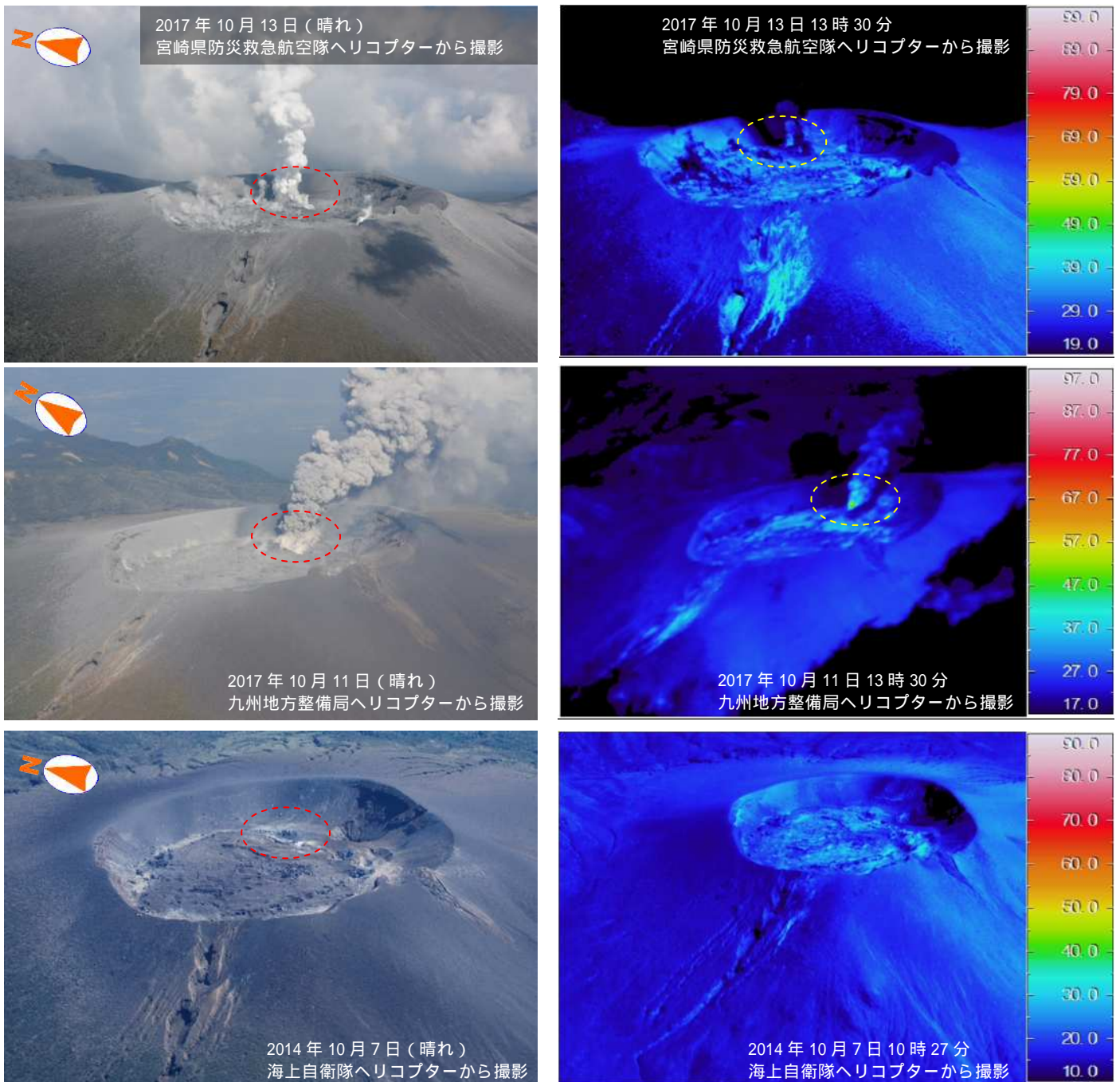


図2 霧島山(新燃岳) 新燃岳南西側と火口内の状況

- ・火口内の東側(図の赤破線)から白色噴煙が火口縁上500mまで上がり東に流れていました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は確認されませんでした。
- ・前回観測時(10月11日)に火口内東側で噴煙温度の高まり(図中の黄破線)を確認しましたが、本日の観測では噴煙温度が低下しているのを確認しました。

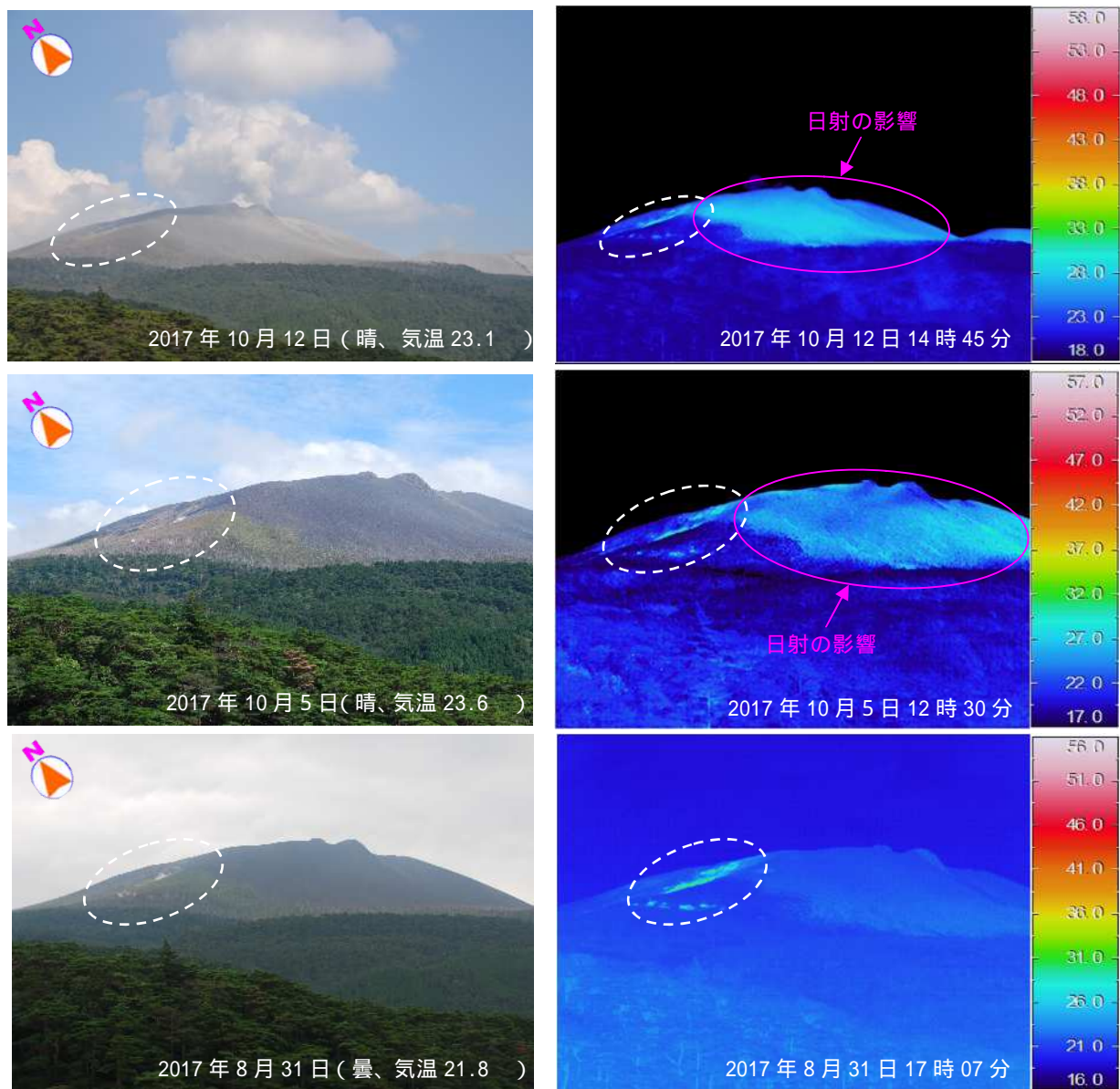


図3 霧島山（新燃岳） 新燃岳南西側の状況（新湯温泉付近から観測）

西側斜面の割れ目付近及び割れ目の下方（図中の白破線）で、噴気の状態や熱異常域の分布に特段の変化は認められませんでした。



図4 霧島山（新燃岳） 図3の観測位置

（白丸は観測位置、矢印は撮影方向、黒破線は西側斜面の割れ目を示します）

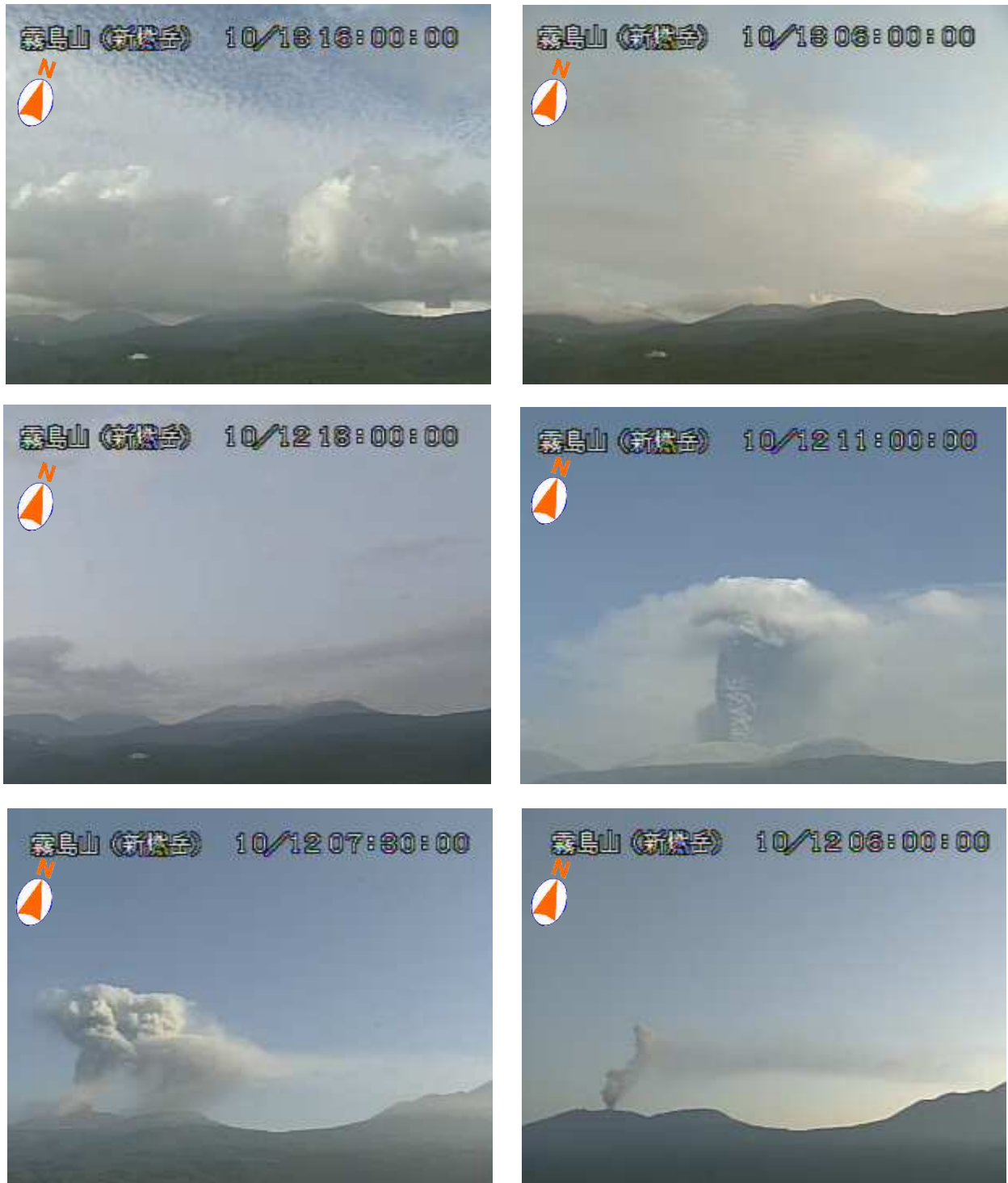
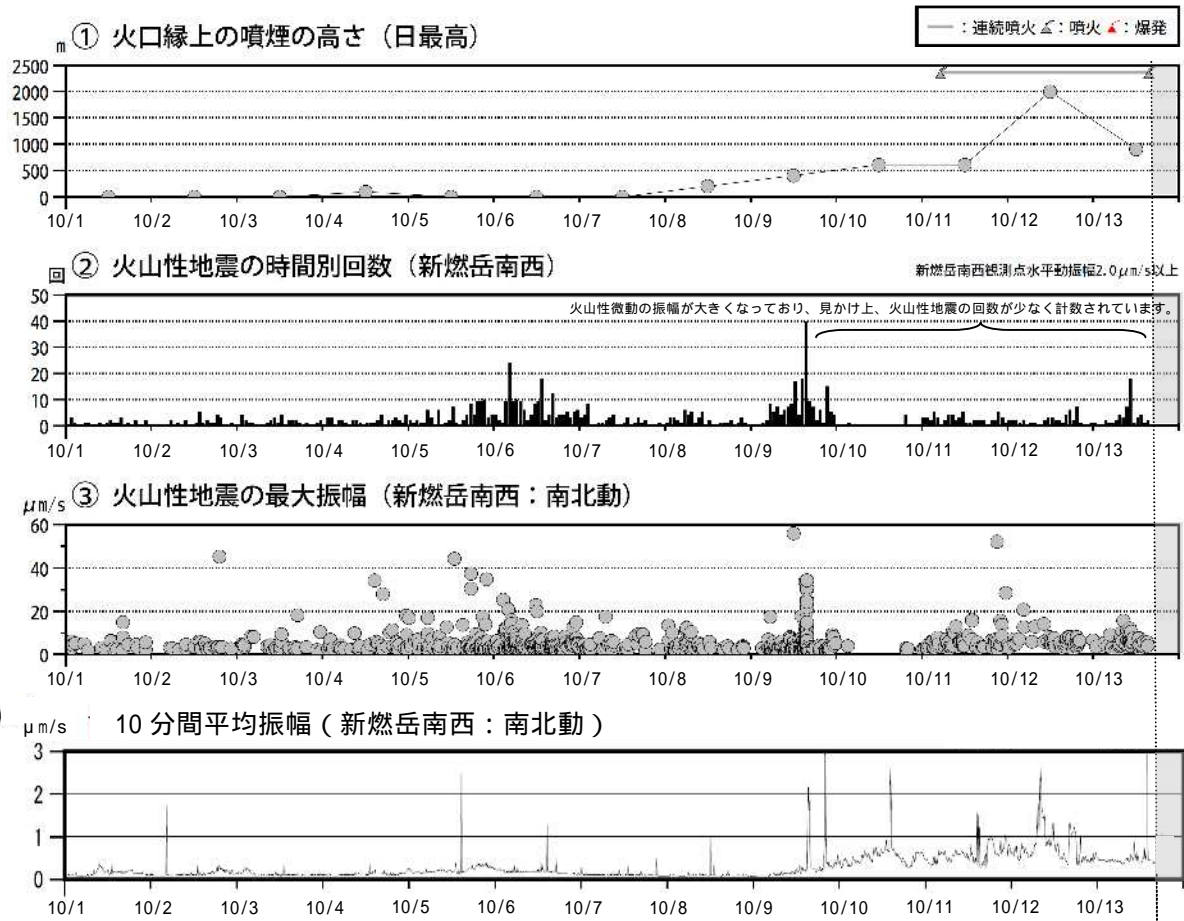


図 5 霧島山（新燃岳） 監視カメラによる噴煙の状況（猪子石監視カメラ）

噴煙は、本日（13日）0時から15時までの最高は火口縁上900m（13時33分）でした。16時以降は、天候不良により噴煙の状況は不明となりました。

噴煙量や噴煙の流向に合わせて、画角を変更しています。



10 月 13 日 16 時

図 6 霧島山（新燃岳） 火山活動経過図（2017年10月1日～10月13日16時）

火山性微動は、依然、消長を繰り返しながら継続していますが、振幅はやや小さくなっています。

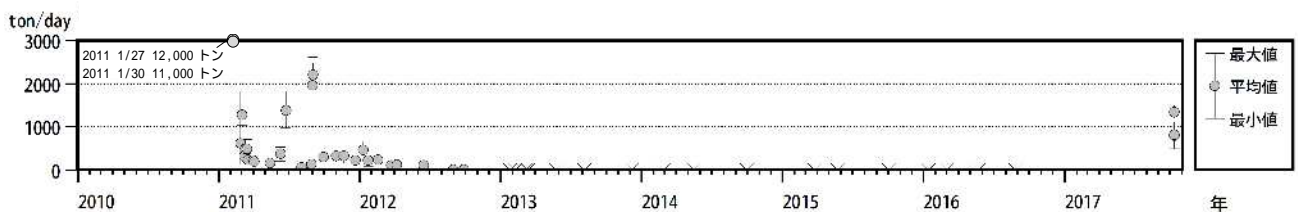


図 7 霧島山（新燃岳） 火山ガスの観測状況（2010年1月～2017年10月12日）

12日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり1,400トンで、前回観測（10月11日800トン）と比べて増加していました。

×は検出限界未満を示す

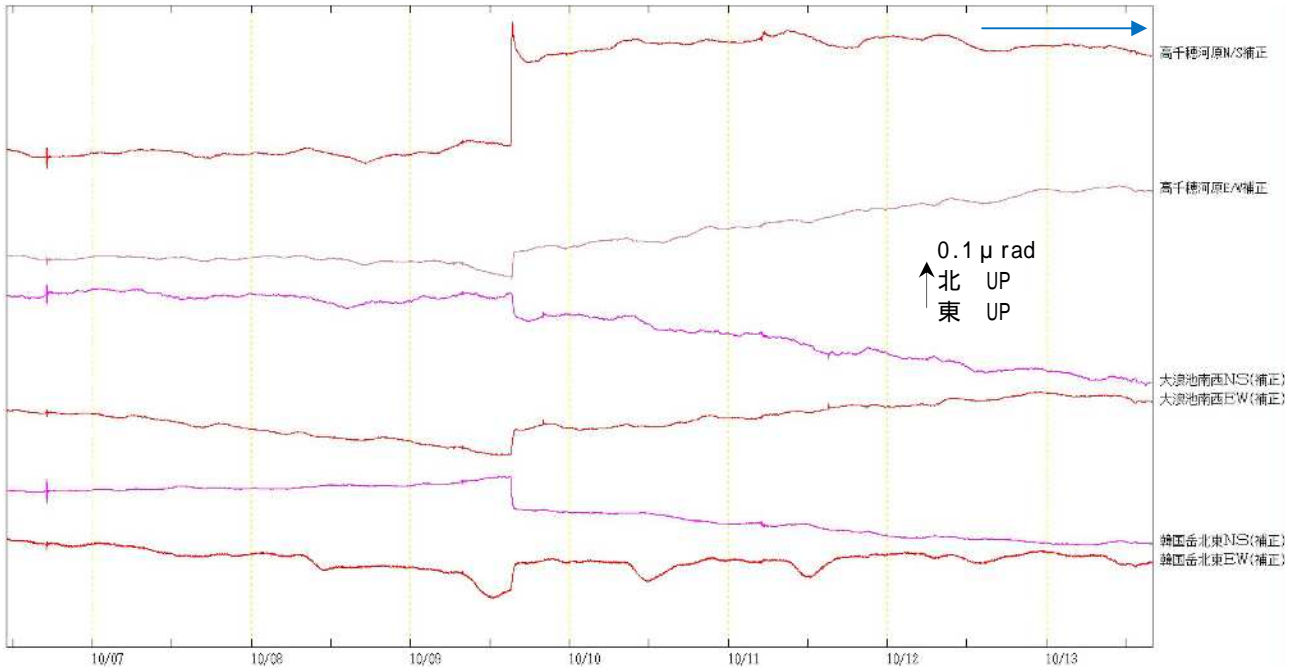


図 8 霧島山（新燃岳） 傾斜変動経過図（2017年10月6日～10月13日16時）

9日15時12分頃に発生した火山性微動に伴う傾斜変動以降、高千穂河原の傾斜計で新燃岳方向が隆起する傾斜変動が続いていましたが、次第に鈍化し停滞しています（図中の青矢印）。その他の傾斜計では、火山活動に伴う傾斜変動が継続しています。

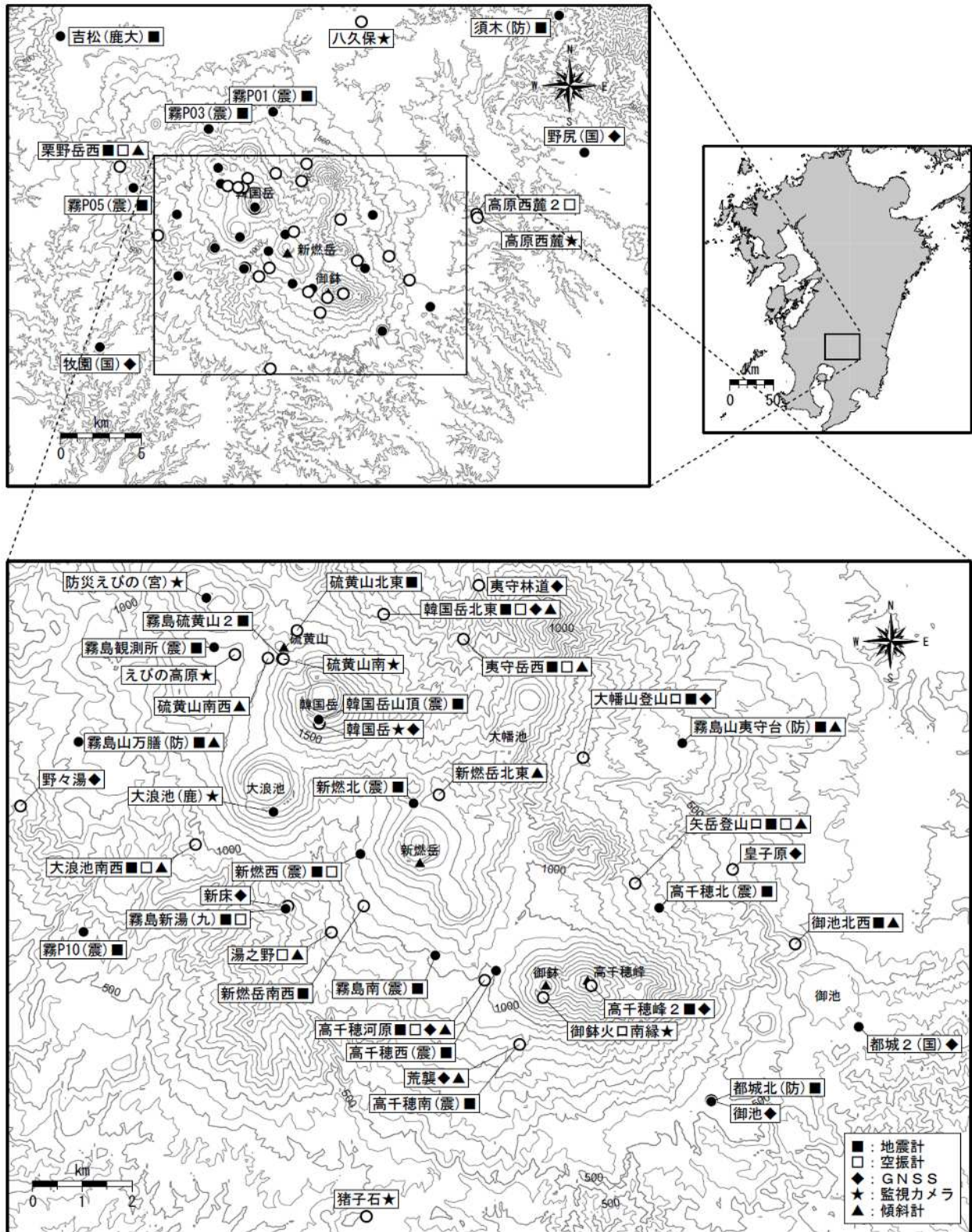


図9 霧島山 観測点配置図

小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所
 (九)：九州大学、(鹿大)：鹿児島大学、(宮)：宮崎県、(鹿)：鹿児島県